■ 枚方市景観基本計画の基本方針フロー

景観の現状

自然景観と歴史景観の現状

○ 枚方を象徴する自然の現状
広大なパノラマ景観を有しながら市の西部をながれる淀川と、東部に連なり壮大な緑のランドマークとなっている生駒山系の山々。これらはともに枚方を象徴する自然風景であるとともに、市域における貴重な自然資源です。

○ 市街地の身近な自然の現状
枚方市には、船橋川・穂谷川・天野川をはじめとする河川と古くからの灌漑用のため池が多く残っており、これらは身近な水辺空間として枚方の特徴と言える貴重な景観資源です。また、市街地に残る農地も貴重な緑のオープンスペースであり、丘陵斜面地に残る樹林や社寺林などを背景にしたまちの風景とともに、現在の枚方の特徴と言えます。

○ 歴史的な景観の現状と課題
古いまちなみや百済寺跡などは、人をひきつける歴史の重みを感じさせる重要な景観資源です。枚方市には、かつての街道沿いに中世から近世にかけての集落や宿場町の風情が残っているところも少なくありません。その中でも、旧枚方宿や招提の寺内町、春日の環濠集落などは歴史的価値も高いです。特に、旧枚方宿においては、地域が主体となって歴史的景観の保全活動や町家を活かした商業施設の整備等に取り組まれており、歴史的雰囲気を散策する観光客などが訪れるようになっています。
また、穂谷・尊延寺の大和棟の民家や三矢・磯島の段蔵などは、枚方市の風土を表すものとして貴重です。

地域環境の現状

○ 市街地の緑空間の現状
樹木に親しみ草花に触れ、季節感を感じられる環境が身近にあるということは、快適な地域環境を形成する上で不可欠です。

○ まちなみ景観の現状
住宅地は市民の最も身近な生活空間であり、地域コミュニティと豊かな生活文化を育む基盤です。地域への愛着を高めるためには、良好な環境の住宅地を形成することが大切です。

○ 景観阻害要因の現状
駅前や商業地などでは、違法駐車や放置自転車、乱立する看板などが見られます。また、幹線道路の沿道を中心に大型の屋外広告の乱立が目立つようになっています。

○ 生活環境の現状
「住みたい住み続けたい」まちの実現のためには、住環境の安全性や快適性は必要不可欠なものであり、まちの魅力やまちに対する美しさへの関心にもつながります。枚方市では既に公共空間において高齢者や障害者などに配慮した誰もが利用しやすい施設整備を進めてきました。

都市的景観の現状

○ 枚方市駅周辺の現状
枚方市駅は、枚方市の玄関口であり、駅周辺は枚方市の中心商業地としてにぎわいを見せてきましたが、社会経済情勢の低迷が続くなかで大型店舗の相次ぐ撤退や店舗の減少などがみられます。また、北河内の行政の中枢を担う官公庁施設をはじめ様々な都市機能が集中して立地しています。一方、枚方市駅の北西部一体においては、再開発が進められラポールひらかた、メセナひらかた等の公的施設や関西医大付属病院等が整備され、新しい風景を創り出しています。また、今後整備が予定されている総合文化施設なども含み枚方市駅周辺を一体的に考えた枚方市駅周辺再整備ビジョンも策定されています。

○ 生活・商業空間の現状
枚方市駅周辺や樟葉駅前は、ショッピングゾーンとしてにぎわいのある商業空間が形成されています。しかし、市内のその他の駅周辺には自然発生的に商店の集積が進んでいるところがあります。また一方では、国道１号等の幹線道路沿道を中心に大型の商業施設などの集積も見られます。

○ 文化活動の拠点の現状
枚方市では、地区の特性に応じた良好な都市環境の形成の一環として、輝きプラザきらら、中央図書館及び総合文化施設の整備等を進め、生活を豊かに彩る文化芸術活動の振興を図るとともに、市民の美意識や感性を磨き、まちの美しさへの関心を高めてきました。

○ 沿道景観の現状
道路は都市景観を形成する上で骨格となる重要な要素です。

景観の問題

自然景観と歴史景観の問題

淀川では高い堤防や幹線道路、鉄道等が市街地と河川空間とを隔てる位置にあるため、日常生活との関わりが希薄になっています。また生駒山系の山々では、その連続した緑の稜線の眺望が変化しつつあります。

開発などに伴い、ため池、農地や斜面林は減少傾向にあります。

住宅の建て替えなどに伴い歴史的な景観が失われることも危惧されます。

地域環境の問題

街路樹や公園・広場など計画的な植栽を行った公共空間に対し、公共施設の緑や住宅工場地内の緑化は十分とは言えません。

土地利用の変化による開発や既存住宅地での建て替えなどが予想されます。

違法駐車や放置自転車、乱立する看板などは、都市景観を阻害している要因の一つです。また、大型の屋外広告の乱立が目立つようになり、道路景観が阻害されつつあります。

まだ一部では、歩車分離や段差の解消といった問題も残しています。

都市的景観の問題

大型店舗の相次ぐ撤退や店舗の減少などがみられ、賑わいが薄れつつあります。官公庁施設等は建物の多くが老朽化しつつあり、建て替えや改修の時期にさしかかりつつあります。

市内の駅周辺に自然発生的に集積した商業空間では、道幅が狭く道路や広場の整備も遅れ、駅利用者の増加とも相まって交通の渋滞が目立ちます。

枚方市は京都・大阪ともに電車で 30 分圏内という地理的条件のため利便性は高く、それが逆に京都・大阪においてレクリエーションや文化・芸術活動等を行う傾向も強いとも言えます。

枚方市の道路は全体的に歩道が狭く、街路樹も少ない上に、沿道の景観が雑然としています。

景観の課題

自然景観と歴史景観の課題

○淀川や生駒山系の山々を枚方を代表する景観資源として守り、活かしていくことが課題。

○農地や丘陵地などでは周辺との調和や樹林の保全、市街地の緑化が重要。水辺空間などでは景観資源、身近な自然とのふれあいの場、レクリエーション空間として活かしていくことが重要。

○地域の歴史的な景観をまちの個性として有効に活かしたまちづくりを進め、枚方市の魅力を高めることが必要。

地域環境の課題

○公共空間や民有地の緑化の充実がうるおいと安らぎのある景観形成を進める上で重要。

○地域の個性を活かした良好なまちなみ景観の形成が必要。

○景観阻害要因の除去・改善と市民の景観に対する意識とマナーの向上が必要。

○ユニバーサルデザインに配慮した、建築物や道路、公園などの公共施設の整備が必要。

都市的景観の課題

○枚方市駅周辺では、枚方市駅周辺再整備ビジョンなどを踏まえ、41 万都市としての風格とにぎわいのある都市景観を創っていくことが必要。

○地域の生活拠点となる快適で魅力ある商業空間の形成や沿道立地型商業施設の景観の向上が必要。

○文化活動の充実により、景観への関心の向上や活性化の推進につなげる事が必要。

○道路緑化や舗装などのデザイン等の工夫により、歩行者が快適に楽しく歩ける道路づくりを行うことが必要。

景観づくりの目標・方針

景観づくりの目標

『枚方の新たな魅力をつくる』

～ 自然と歴史と人を紡ぐ ひらかたの新しい景観づくり ～

市民・事業者・行政が連携した多面的な取り組みによる優れた景観の保全・育成・創出

「豊かな自然や歴史」をまもる

今後ますます都市が変化していく中で、枚方市に残された豊かな自然や歴史の原風景を次世代に引き継ぐとともに、それらと親しむ機会をつくりだしていきます。

○枚方を象徴する自然風景や市街地に残る自然資源を守り活かす

○歴史的景観を守り、まちの記憶・地域の個性として活かす

「快適な地域環境」をはぐくむ

人々の生活環境に対する価値観も変化する中、今後は機能的・量的整備にとどまらない、よりアメニティの高い地域環境の整備を進めていきます。

○自然が息づき、人々があたたかい“ぬくもり”を感じあえる場を創る

○個性を活かしたゆとりある美しいまちなみを育む

○まちの景観を乱すものを取り除く

○高齢者や障害者にやさしい地域環境を育む

「都市的な魅力」をつくる

枚方の都市としてのアイデンティティを高めるとともに、市民の誇りとなるような、洗練された都市的にぎわいや高い文化性が感じられる都市的な景観をつくっていきます。

○にぎわいと風格のある都市核を創る

○生活を楽しみ文化に触れる地域の拠点をつくり育てる

○四季のいろあいや一日の時のうつろいに変化する表情を楽しむ都市を演出する